令和８年度青少年グローバル共感キャンプ　参加レポート

報告者　岩宗　晄央

青少年グローバル共感キャンプで印象に残ったこと

この研修でいちばん心に残ったことは、済州島の伝統的な海女・ヘニョの文化について学んだ学習です。海女の方々がどのようにして自然と触れ合っているのか、また伝統的な漁の仕方や使用する道具などを深く知ることができ、非常に貴重な体験となりました。研修の中では海女のマスコットに自分で自由に顔を描くこともでき、そのマスコットをもらえたことがとても嬉しかったです。何より印象的だったのは、現地の海女さんが日本の文化や生活、そして、日本の海女にとても興味を持っていらっしゃったことです。言葉はあまりよく分からないはずなのに、私達日本人の話を笑顔で熱心に聞いてくださり、たくさん話をすることができました。このように優しく迎えてくれた現地のみなさんへ感謝の気持ちでいっぱいです。この交流を通じて国籍の違いを超えて人と人とが触れ合い、笑顔でつながることのすばらしさを、身をもって実感できて幸せでした。

青少年グローバル共感キャンプで学んだこと

私は、国籍や文化が違っても一人一人が地球のためにできる事から行動を起こす大切さを学びました。講義で見た二つのアニメーションが特に心に残っています。

一つ目は、海のプラスチックごみを集めるクジラの話です。ごみを集め続けたこのクジラは、最後にはごみの重さで沈みそうになります。その際、過去にこのクジラが助けた生き物たちが沈みそうになったクジラを助けにやって来ます。そして、ごみも地上で処理され、クジラも無事に救われた動画です。

二つ目は、山火事の火を消そうと懸命に奮闘する鳥の話です。この鳥は逃げる動物達を横目に小さなくちばしで川の水を運び続けます。世界が抱える大きな問題を前にすると、自分一人の力は小さく思えてしまいます。だからこそ、一人一人が身近なところで小さな努力や意識の変化を積み重ねていくことが大事だと思いました。

済州島の海岸をみんなで清掃することが出来たのも良かったです。また、日中韓の仲間達と過ごす中で、母国語が違ってもジェスチャーや英語を使えば十分に深いコミュニケーションが取れることも実感しました。お互いを理解しようとする気持ちがあればすぐに仲良くなれるという体験は、これから海外の方と関わる時への自信につながりました。この研修を通じて私は人と関わることの大事さを知ることが出来ました。これからもこういう活動に積極的に参加していきたいです。



海岸での清掃活動

これから、いかしたいこと

　この研修で私は、人とのつながりや、一人一人の小さな積み上げが大切だということを学びました。これからは、身の回りで自分にできる行動を続けます。

私は、祖母や妹と共に、KANNE 主催の「虹の松原クリーン大作戦」に参加してきました。大好きな唐津の自然を守ることに少しでも協力できたらと思い参加しました。今後もこのような活動を継続しながら、日常の節電やごみ削減など、身近な取り組みを積み重ねていこうと思います。そして、学校や地域で行われている他のボランティア活動にも積極的に参加しようと考えています。また、この考えを友人や家族などに広めようと思いました。

　今回のキャンプではさまざまな経験をすることができて、成長できたなと自分でも感じます。たくさんのことを学ぶことができてとても良かったです。

　この経験をこれからの生活にもいかしていこうと思いました。そして、人のために動くことの大切さを忘れずに行動していきたいと思います。



「自分たちが大切にしたいもの」を表す
新しいシンボルを共同で創って発表しました